

リヴァイバルの精神を失はず信仰を以て学校の基礎となし、學術を以て左右の翼と為し弥振ひ、弥勉め、生徒諸君之主基督の為又邦家の為御尽力あらん事を日夜祈居候

一八八四年十月三十一日 新島八重 宛
『新島襄全集3 書簡編1』

山本 真司^{やまもと しんじ}（国際中学校・高等学校教諭）

函館で新島が出会ったニコライの日記には同志社が登場する。「日本人の新島によってアメリカの資本で創立された京都のキリスト教の大学（同志社）は、世俗の学校になる。もしそこでキリスト教が教えられるのであれば、同じように宣教や講義というかたちで仏教も教えられるだろう。」（1895年10月6日付）「これは京都の同志社の話だ。敬虔なアメリカの組合教会信徒や民間人、彼らの宣教協会は何百万という出資を惜しまず、買い入れた広大な用地に豪華なキリスト教施設を作ることにした。（中略）日本に学校教育という方法を通じて、キリストの教えを広める目的があったからである。しかし現在日本人たちはこの大学を普通の教育の施設にしてしまおうとしており、日本人の教授が「キリストは道德の教師以外のなものでもなく、孔子やその他の道德家たちとなんら変わりはない人だ」と教え

ているのである。自分らの大学は、「キリスト教道德」を教えることを除いては、いかなるキリスト教的な目的も持たないと直裁にまた何の斟酌もなく言つてのけたのである。」（1896年7月26日付）「宣教師ニコライの全日記」第4巻 2007年 教文館 1864・3—1890・1」

ギリシャ正教会はニコライを中心に神学校の建設と運営に着手するが、その道は険しかった。英学校開校以来順調に発展していたように見えた同志社への嫉妬あるいは羨望だろうか。いづれにせよ、私たちは今、ニコライのつづやきを真摯に受け止め、襄が八重に祈りながら囁いたこの言葉を常に大切に魂に問いかけなければならぬと感じる。

「信仰を以て学校の基礎となし、學術を以て左右の翼と為す」